

2021年度

事業報告

社会福祉法人にじのこ福祉会

概 要

にじのこ福祉会の概要

1. 法人の概要

経営主体 社会福祉法人 にじのこ福祉会
 所在地 岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号
 T E L 086-272-4111
 F A X 086-272-4171
 代表者 理事長 浪尾淑子
 法人設立年月日 2010年7月1日

2. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会開催状況

開 催 年 月 日	出 席 者 人 数	議 題	欠 席 者 氏 名	出 席 監 事 氏 名
2021 5/30	理事7名 監事2名	第1回理事会（書面議決） 第1号議案 2020年度事業報告及び決算の承認の件 第2号議案 役員候補者9名の選定について 第3号議案 評議員会の招集について 報告第1号 評議員選任・解任委員会の決議結果について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2021 6/24	理事7名 監事2名	第2回理事会（書面議決） 第1号議案 理事長の任期満了に伴う改選の件 第2号議案 業務執行理事の任期満了に伴う改選の件 第3号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について 第4号議案 職員の処分について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2021 7/30	理事7名 監事2名	第3回理事会 第1号議案 役員賠償責任保険の更新について 第2号議案 規定類の改定について 報告事項 協議事項		山崎由佳利 藤原弘典
2021 9/27	理事7名 監事2名	第4回理事会（書面議決） 第1号議案 コロナ対応手当の支給について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2022 2/7	理事7名 監事2名	第5回理事会（書面議決） 第1号議案 特別配分手当の支給について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2022 3/7	理事7名 監事2名	第6回理事会 第1号議案 2021年度補正予算について 第2号議案 2022年度事業計画書について 第3号議案 2022年度当初予算について 第4号議案 2022年度役員等報酬総額について 第5号議案 評議員会の招集について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典

2022 3/14	理事7名 監事2名	第7回理事会 第1号議案 規定類の改定および協定書について 第2号議案 当座貸越の契約更新について 第3号議案 労働組合への回答書について 第4号議案 運営規程の改定および重要事項説明書について 第5号議案 評議員選任・解任委員会の開催 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
--------------	--------------	--	--	---------------

(2) 評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席 監 事 氏 名
2021 6/14	8名	定時評議員会（書面議決） 第1号議案 2020年度決算承認（計算書類・財産目録の承認）の件 第2号議案 理事7名及び監事2名の選任の件 報告第1号 2020年度事業報告の件	書面議決	
2022 3/24	8名	第2回評議員会 第1号議案 2021年度補正予算について 第2号議案 2022年度事業計画書について 第3号議案 2022年度当初予算について 第4号議案 2022年度役員等報酬総額について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典

3. 監事監査の実施状況

(1) 監査日程等

2021年5月18日（火）9時30分から

山崎由佳利監事（業務監査）・藤原弘典監事（会計監査）

(2) 監事監査の評価

（保育）

全体的な計画に基づき、必要な書類の作成が出来ている。経験の浅い職員でも実践に生かしやすい工夫がされているのでしっかり活用しながら無理なく改良を加えていくことでより充実すると思われる。

検診簿や健康観察・・・データ化することで、事務の効率化や子どもの状態の記録・分析に役立つような新しいやり方を取り入れている。今後も、デジタル処理がより進むと思われるが、特に子どもの現状把握などは見落とすことのないよう、デジタルの扱いに慣れることとアナログで大切にしていかなければならないことを意識的に区別して進めてほしい。

危機管理マニュアル・・・新型コロナウイルス感染症対策を始め、現在必要なマニュアルを複数の職員で検討し作り替えていくという作業が出来ている。気を抜かずできる限りの工夫を重ねている様子がうかがえた。

食育・・・年齢にあった食事の形態がとられ、感染対策に力を入れながらも子どもに必要な経験が出来るように工夫されている。

そのほか、適正に保育が進められている。

（法人運営、財務その他）

理事会・評議員会の議決等は適切に行われており、議事録もわかりやすく整理されている。

会計管理は適正に行われている。新型コロナの影響で情勢が不安定な中、園長をはじめとした職

員の奮闘で安定した経営が続けられていることを評価したい。

新型コロナ対策に追われた一年だったと思うが、園全体の感染対策は適切に行われていると感じた。マニュアル類の整備もできている。今後も保護者と協力し感染リスクを減らしていく取り組みを続けていきたい。

4. 職員採用状況

(1) 2022年度 職員採用状況

保育士 2名

* 新卒者 (ノートルダム清心女子大学) 村上 菜奈

* 既卒者 (正規登用試験:非正規で1年勤務) 永井 寧々

栄養士

* 新卒者 (山陽学園短期大学) 塩入 優衣

管理栄養士

* 新卒者 (岡山県立大学) 羽原 采音

(2) 2022年度 職員採用試験

(保育士) 2021年 9月 5日(土) 9:00~13:30 1名受験:採用

2021年10月23日(土) 9:00~13:30 1名受験:不採用

2022年 3月18日(金) 9:00~14:00 1名受験:採用

(栄養士) 2021年 9月11日(土) 9:00~13:30 3名受験:2名採用(栄養士)
1名不採用

(3) 2022年度職員採用状況と2021年度職員退職状況

職員採用については、全国的な保育士不足が進行している。

その中で、例年開かれている「山陽学園短期大学保育士合同面談会」が実開催ではなく、ビデオレターという形での開催になった。20分ほどの内容ではあったが、職員と共に作成したアルバムを片手に園長が保育内容や労働条件などを説明した。その後、大学が行った視聴学生アンケートで、岡山協立保育園に対する評価が高かった。その評価をみた他園の園長から、どういうビデオレターを作成したのかとの問い合わせがあった。学生の感想には、「一人ひとりを大切にするために担当制の保育をしていて興味を持った」「子ども達の関わり合いが豊かに持てる異年齢混合保育に興味を持った」「自分の保育園に子どもを預けながら働けるのが良いと思った」「事務時間が保障されていることや希望の日に休暇が取得できること、有給休暇の完全消化などの話を聞き、長く働き続けられる職場だと思った」などの感想が寄せられた。

また、「岡山市私立保育園・認定こども園園長会就職フェス」でも、多くの学生が話を聞きに来てくれ、採用試験の応募に繋がった。

今期は、正規職員として、保育士2名、栄養士1名、管理栄養士1名を採用した。毎年欠かさず、卒業生を紹介してくれる山陽学園短期大学は、今期の卒業生がごくわずかなため採用には至っていないが、当園に対する信頼も厚く、卒業生である職員の仕事を授業で紹介したり、就職活動の学生や学生アルバイトを紹介してくださっている。また、今期は当園で実習した学生が受験してくれ、採用に結び付いた。採用に至るケースをみると、保育の理念や保育内容はもとより、法人が先駆的に進める職員の処遇改善(事務時間の保障、希望休暇の取得、有給休暇の消化期間中の消化など)が功を奏した結果だと思われる。

今年度の退職者については以下の通りである。

・年度末の退職者 4 名

正規保育士 = 別の仕事に就きたいという意向での退職（勤続3年）

正規管理栄養士 = 保育園の給食では管理栄養士としてのキャリアが積めないため（勤続3年）

非正規短時間保育士（社保対象） = フルタイムで働きたいが、子どもの登下校時に家に居たいので通勤時間がかかる当園は条件に合わない

非正規短時間保育士（社保対象外） = もともとやりたかった仕事を自宅で始めることになった

5. その他の事業活動状況

評議員選任・解任委員会 2021年4月20日（火）

事業報告

・法人事業報告

社会福祉法人制度が改革されて、初めての評議員の改選を迎えたため、4年ぶりに評議員選任・解任委員会を開催し、評議員は2名が交代した。役員も改選手続きを行ったが、前期と同じメンバーで、5期目をスタートした。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、決算に関する理事会、定時評議員会、理事長専任の理事会など、年度当初から書面議決による手続きを余儀なくされ、改選により新たに選任された評議員2名が、他の評議員と顔を合わせる機会を得ることができないまま一年間が経過した。年度末の理事会・評議員会は、参加者にオンライン参加の協力をお願いして、集まる人数を最小限に抑えることを優先にしたが、発言の意思表示があった場合、オンライン側の音源にマイクを移動することで間があくため、会議参加者の一体感を得ることが難しかった。また、オンライン側と会場側でのお互いに声の聞き取りづらさなど多数の課題が挙げられ、両者のスムーズな議論を進めるための環境整備が次回への重要な課題となった。県外に居住する役員や自身が従事する業務が繁忙な役員・評議員は移動を伴わず会議時間のみスケジュール調整が可能となるため、一年間を通じて、出席率が高かったことはよかった。

岡山市指導監査による法人監査については、「前回の指導監査の結果、概ね適正な法人運営が確保されていると認められるため、今年度は、一般監査を省略する」旨を文書によって通知された。

1. 岡山医療生活協同組合との連携

(1) 一時保育事業への協力

地域の子育てを応援する「一時保育事業」に関して、地域の事業所として応援してくれている。今年度も、職員の子どもを紹介してもらったケースがあり、岡山医療生協は、職員の職場復帰が実現し、保育園は、毎日利用する子どもを紹介してもらい受け入れることができた。

(2) 地域の子育てを応援する活動

医療生協内の組織編成により「子育てサポート委員会」が無くなり、「くらし・ボランティア委員会」で、子育て関連事項についての検討を行うことになった。この会議の第1回目は参加できたが、それ以降参加の要請はなかった。

全国に先駆け、岡山医療生協が力を入れてきた分野でもある「地域の子育て支援」が先細りになるのではないかと危惧している。コロナ前に取り組んでいた「ママ's カフェ」「タッチケア」「宿題応援隊」「子育てサポーター養成講座」などは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施できていない。

(3) 園児と高齢者との交流

5歳児は、毎月開かれていた「旭東学区ふれあい会食」に参加し、高齢者との交流を楽しんでいたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。

2. 職員が働き続けられる職場環境づくり

(1) 職員給与の改善について

2014年度以降、毎年、人事院勧告に基づく公定価格の人件費分がプラス改定されていた。しかし、2020年度の人事院勧告では、一時金0.05か月分のマイナス改定が行われ年間4.5か月から4.45か月に変更された。このように、2021年度の公定価格は前年度マイナス0.5%の単価改定となった。

2021年度の人事院勧告では、さらに、一時金0.15か月分のマイナス改定がきまり、年間4.45か月から4.3か月分になる予定だったが、その後、公定価格の据え置きがきまり年間4.45か月のまま減額されなかった。

また、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」（令和3年11月19日閣議決定）において「保育士等・幼稚園教諭を対象に、賃上げ効果が継続される取組を行うことを前提として、収入を3%程度（月額9,000円）引き上げるための措置」＝保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業（以下「臨時特例事業」という）が2022年2月から実施された。臨時特例事業補助金の給付には、2021年度の人事院勧告のマイナス改定（一時金0.15か月分）を反映していないことが要件とされたため、年度末の特別手当と共に、追加支給した。そして、2022年2・3月分の臨時特例事業補助金は、労働組合と協議の上、在籍する全職員に対して「特別配分手当」として支給した。

人事院勧告に伴う一時金の引き上げは、2016年度から継続的に毎年実施していたが、2019年度の年間4.5ヶ月分をピークに2020年度・2021年度は4.45ヶ月分の支給になった。

2020年度以降、人事院勧告にともなう公定価格の改定が実施された場合は、前年度の給与支給方法で、当該年度の全職員に人件費を支出した場合の試算額と実績の差額が、人事院勧告に基づいて改定された公定価格の人勤改定部分の総額を超えているという条件があるが、超えた分の改定は実施されていない。

(2) 働き続けられる職場環境づくり

保護者の労働を支え、子どもにより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応が求められるとともに、個々の子どもや家庭への細やかな配慮が求められる。そんな中、保育労働は一段と過密化し、職員に大きな労働負担やストレスがかかっている。また、この2年間はコロナウイルス感染症の影響で、職場内だけでなく私的な部分でも行動制限などの制約があり、職員の精神的負担が大きくなっている。

働き続けられる職場環境づくりでは、「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められ、保育園職員のそれぞれの実情を把握した職場環境づくりが必要になると考えている。そして、ここ数年は、様々な取り組みを試みることで働き続けられる職場環境の改善に力を入れている。

希望休暇の取り組み

子育てや介護など私的な予定を勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成している。希望休暇は、多い月と少ない月があるが、1か月に約60日程度ある。そのために必要な「代替え職員」を、各年齢に準担任として配置することで、ほぼすべての希望休暇を叶えるとともに、子どもへの影響を最小限に留める努力をしている。

有給休暇取得

昨年度に引き続いて、有給休暇を消化期間中に取得する取り組みを行い、職種や処遇に係る

く、在職するすべての職員が自身の有給休暇を流すことなく取得することができた。

また、有給休暇の発生は職員の採用月に連動しまちまちであったが、全職員4月1日支給に改めた。このことにより、新採用の職員も採用当初から有休が利用できるようになった。

2021年度の有給休暇平均取得日数は、正規職員で平均18.1日(20名)、非正規フルタイムで平均23.8日(2名)、非正規短時間で平均19.2日(11名)になっている。

事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制の中では難しい。そんな中、多くの保育士は持ち帰っての残業を余儀なくされていた。しかし、近年は、個人情報の管理が厳しくなり園外への書類の持ち出しも禁止しているため、事務については残業せざるを得ないが、家族に負担をかけるためそれも難しい状況があった。

そこで、これらを解決するため、希望休暇取得を目的に配置した「代替職員」を、事務保障のための代替にも活用するようにした。この取り組みにより、クラスリーダーは月1日程度、担任は半日程度の事務時間の保障ができた。月末や月初のタイミングで保障するところまではできていないが、まとまった時間を子どもから離れて必要な書類に記録したり計画を作成したり教材を準備するなどできるので保育士からは喜ばれている。また、給食職員は、翌日の献立指示書を基にした確認会議を実施している。また、その日のうちに行う業務(調理温度や衛生面での記録など)が日々必要となるため、職員定数(120定員は2名)より1名増やして対応している。

2021年度、勤務時間内で保障した事務時間の状況は以下の通りです。

・クラス担任の事務時間総計は約1132時間

(内訳) 保育計画や記録に関する事務時間総計 約784時間(1人年間46時間)

保育計画は1クラス当たり年間 約28時間(月2.3時間)

個人記録は1人当たり年間 約33時間(月2.7時間)

その他(お便り・環境整備・保育準備・学校や医療機関へ提出する書類など)

その他の事務は1人当たり年間 約21時間(月1.7時間)

超過勤務

コロナウイルス感染症の影響もあり、行事を縮小したので例年に比べて保育士や給食職員の超過勤務は減少傾向にあった。しかし、感染症対策のための日常的消毒や学級閉鎖時の消毒などを時間外で行うこともありその分は超過勤務が増えている。

2021年度の超過勤務の状況は以下の通りです。

・職員の超過勤務時間の総計は約1848時間(1人年間約102時間)

(職種別) 保育士は1人年間約110時間(月9.16時間)*保育士は管理職を除く

クラスリーダーの事務時間(年103~141時間)

クラス担任の事務時間(年82~117時間)

栄養士は1人年間約33時間(月2.8時間)

事務は1人年間約132時間(月11時間)

近年、制度改革が進む中、行政に提出する書類や事務量が急激に増えている。週0.5~1日程度は、休暇代替職員が保育園事務を手伝う日を設けた。事務が集中できる環境作りや繁忙期の体制強化は今後の検討課題として残る。

相談しやすい体制づくり

現場保育士が、日々の悩みや気づきを相談しやすいように、3歳未満児の各年齢に相談指導の担当者としてサポーター（中堅保育士）を配置した。また、中間層を作り、果たすべき役割を受け持つことで、次世代の管理職を育成する目的もある。

担任からは「相談がしやすかった」「話し合いに入ってもらい、的確にアドバイスをもらえてよかった」などの感想があった。サポーターからは「3未と3上の連携がとれた」「3未の子どもの育ちを客観的にみることで、3上に向けて何が必要かを考えることができた」などの感想があった。

キャリアパスの体制作り

処遇改善（キャリアパス）の対象者には、研修の受講が義務付けられている。これらの研修については、研修後発行される証明書は対象者個人が取得した資格として取り扱われるため、従来から受講者は有給休暇を使い自費で研修に参加することにしている。

また、この対象者には、経験年数や園内の責任と業務量に応じた支給金額を設定し、その役割を果たしてもらっている。どの職員も自分に与えられた役割や任務を一生懸命果たそうとする姿が見られた。

． 保育園の事業報告

1 ． 地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約 15 分程度のところに位置しており、高齢者とともに、近年では乳幼児も増えている地域になっている。

また、周囲には多くの認可保育園や認定こども園、無認可保育所などがあり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

園児が在住している地域は、3月末日の統計で、中区が一番多く約 82.5%、南区が約 12.3%、北区が約 5.2%、東区が約 0%になっている。地元東山中学校区の割合は、全体の約 32.4%（旭東小学校区約 12.3%、平井小学校区約 20.1%）を占めている。

園児は岡山市内全域から登園しており 26 小学校区から通っているが、急速に中区在住の園児が増加している。全市的に保育施設設備が整い、各地で一定数の受け入れが完了してきているものと思われる。

2 ． 施設の概要

- ・敷地面積 4180.52 平方メートル
（うち駐車場の一部は借地...394.64 平方メートル）
- ・延床面積 1144.47 平方メートル
（園舎 792.49 平方メートル・増築園舎 251.29 平方メートル・屋外倉庫 20.72 平方メートル）

3 ． 定員

- ・利用定員 120 名（各年齢 20 名）
- ・認可定員 165 名

4 ． 受入年齢

- ・生後 57 日目から就学前まで

5 ． 保育時間

（1）保育標準時間

- ・午前 7 時から午後 6 時まで

（2）保育短時間

- ・午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

（3）一時預かり事業の保育時間

- ・午前 7 時 30 分から午後 6 時まで

6 ． 延長保育事業

- ・午後 6 時から午後 7 時まで

7. 職種別職員数

3月末日の人数

()は非正規の人数・派遣を含む

職 種 形 態	施設長	主任 保育士	保育士	栄養士	調理員	事務員	保育補助	用務員 (学生7名が1名)	合 計
常 勤 職 員	1 人	2 人	17(3) 人	3(1) 人	人	1 人	人	人	24(4) 人
短時間職員			9(9)				1(1)	1(1)	11(11)
合 計	1	2	26(12)	3(1)		1	1(1)	1(1)	35(15)

8. 年間利用児童数

(1) 定員超過率 121.1% (昨年度比 +2.7%)

(2) 月平均在籍数 145.3人 (昨年度比 +1.5人)

(3) 入園状況

種 別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0 歳	8 人	9 人	11 人	14 人	15 人	18 人	21 人	22 人	23 人	24 人	24 人	24 人	213 人
1 歳	24	24	24	24	24	23	23	23	23	24	24	24	284
2 歳	22	22	22	22	22	22	24	24	24	25	25	25	279
3 歳	28	28	28	28	28	28	28	28	28	29	29	29	339
4 歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
5 歳	27	27	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26	317
合計	135	136	138	141	142	143	148	149	150	154	154	154	1744
入園児数	0	1	2	3	1	3	5	1	1	4	0	0	21
退園児数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2

9. 一時預かり利用児童延べ人数

(1) 一時保育の動向

利用理由は、緊急（出産など）が5.7%、私的利用（集団経験・育休中）が43.9%、就労が50.4%になっており、前年度に比べると、就労が7.8%、緊急が8.2%減少して、私的利用が16.03%増加した。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために毎日登園できる子どものみを受け入れた。そのことで利用者の伸びが期待できず、一時保育室を閉鎖して対象保育士をクラス担任に配置替えし、措置児の受け入れ数を増やし補助金の減額分を補った。

本来は、様々な理由で利用できる一時保育のため、コロナが落ち着いたら一時保育のクラスとして運営していきたい。

(2) 年間開園日数 237日 (昨年度比 -7日)

(3) 一日平均利用人数 5.11人 (昨年度比 -1.71人)

(4) のべ利用人数 1221人(昨年度比 -444人)

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労・就学	20	13	18	28	64	51	59	88	85	48	55	81	610
緊急 (出産・傷病・慶弔)	0	18	24	19	0	8	0	0	0	0	0	0	69
私的理由	96	46	36	66	66	48	36	50	35	17	17	19	532
合計利用数	96	77	78	113	130	107	95	138	120	65	72	100	1211

10. 保育内容

【食育活動】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、今まで通りの食育は行うことができなかった。しかし、3歳児以上が季節の食材にかかわる取り組み(筍の皮むき、グリンピースのさやむき、トウモロコシの皮むき)は行った。

5歳児は、お泊り保育以降ご飯炊き当番を継続し自分が炊いたご飯を、3・4歳児や職員が食べてくれることを喜んでいた。

保育園駐車場内のひまわり畑や裏園庭では、季節の野菜を栽培し収穫した。夏のお泊り保育では「夏野菜カレー作り」などにも取り組んだ。

配膳時、5歳児は自分で食べられる量を注ぎ分けていたが、それができなくなった。そこで、職員が「大・中・小」に注ぎ分けた、ごはんやおかず、汁物を、子ども自らが選べるようにした。自分で選び取り食べきれぬ経験は、自分自身を知る力にもなる。限られた条件の中での食育だが、子どもが実感できる生活経験を保障したいと考えている。

【障害児保育】

私たちは、みんなに等しく同じだけという考え方ではなく、「必要な子どもに、必要なだけの援助を提供する」という考えを持ち、子ども一人一人に合った個別の支援を大切にしている。

職員会議や研修を通して、子どもの見方や対応について本で学んだり、保育観察や事例検討などを行ったりする中で、援助の仕方を具体的に考えて実践している。

3月末時点で154名在籍しているが、子どもの状況は以下の通りである。

自閉症スペクトラムなどの診断書が出ている子どもは14名(9.0%)、診断は出ていないが療育に通っている子どもを含めると17名(11%)が該当していた。学年別に見てみると、5歳児26名中4名(15.4%)、4歳児26名中6名(23%)、3歳児29名中4名(13.8%)に診断書が出ている。5歳児の取り組みでは、子どもの要求に細やかに対応するため、グループを少人数(3人程度)にして、時間的ゆとりを持って取り組むようにした。子どもたちは、集団活動に期待と意欲を持っており、仲間と共にやり遂げたいという思いから力を発揮する姿へと変わっていった。

【参観・個人懇談・クラス懇談】

岡山市から、大人が一堂に会する会は控えるように通知が来たこともあり、クラス懇談は中止し書面で各家庭にお配りした。

今年度も保育参観や個人懇談を行ったが、感染拡大時は中止する対応を取ったため参加できない世帯も多くあった。参観と個人懇談はセットで行ったが、一日に受け入れる人数は、本園舎 2 名と新園舎 1 名に限定した。

保護者の参加状況

- ・ 保育参観（保育参加）に参加した世帯数 59%（前年比 31%減）
- ・ 個人懇談を実施した世帯 62%（前年比 33.3%減）

【地域との交流】

感染拡大防止のため、参加しなかった。

【父母の会活動】

定例役員会が月 1 回開かれたが、感染状況により中止になった月もあった。昨年度に引き続き、父母の会主催の親子遠足は、密を避けながら参加しやすいように数日に分けて行った。行先は「ドイツの森」や「深山公園」で、各世帯が自家用車などを利用して集合し、現地で交流する内容にした。この取り組みは、前年度予定したが感染拡大で中止になった経緯もあり、卒園児の 1 年生にも呼びかけられた。父母の会から各世帯に会費の一部が還元された。参加者は、延べで 29 世帯 108 名だった。

そのほか、12 月末には「リユース活動」に取り組んだが、リユース商品を集めたところで第 6 波に入り実施には至らなかった。

また、他園での事故を受け、父母の会の機関誌「わいわい通信」を活用し、送迎時に遊具を利用して遊ぶ場合の心得などを記載し、保護者が目を離さないよう見守ることを注意喚起した。

【安全対策】

非常時訓練

月 1 回の「避難訓練」「通報・消火訓練」を実施した。1 月には、中区消防署倉田出張所の職員立ち会いのもと、避難訓練と水消火器を使った消火訓練、火災報知機を使った通報訓練、そして、消防自動車の見学を行った。毎月の避難訓練の成果もあり、子ども達が静かに迅速に避難する姿を見て、消防署員が「避難時間も短く、避難態度も良かった」とほめて下さった。

「避難訓練」は、火災、地震、水害などを想定した訓練で、不審者訓練では、職員の役割や動きを書いたシミュレーションを配って訓練した。実際の動きの中で明らかになった反省点を基に、職員の役割分担や動きの見直しを行った。

非常災害時への対応としては、非常災害備蓄食料（離乳食含む）を、園児と職員で 3 日分準備している。また、簡易トイレ・アルミシート・メガホン・ラジオなども準備し、岡山市より支給された「岡山市緊急告知ラジオ」も、緊急地震速報や避難勧告・指示などを伝えるものとして、設置している。定員増もあり非常災害用品が増える一方なので、どのように保管するか再検討が必要になってきた。

園では、緊急時の連絡を保護者と確実にを行うための緊急メールを導入している。このシステムは、県外にメールサーバーがあり、子どもたちの安否情報を確実に伝えることが出来るとされ、緊急時以外にも必要があれば活用しており、今年度はコロナによるクラス閉鎖の際にも活用した。

事故への対策

毎年行っている、岡山協立病院職員を招いての「救命救急講習会」は、コロナウイルス感染症

拡大防止のため実施できなかった。

今年度は、エピペンの使用方法についても、職員でチームを組んで実践的なシュミレーションを行った。必要な園児に対し即座に対応できるように訓練を積み重ねていきたい。

園内では、どんな些細なけがでも「事故報告書」に記載して、管理職に提出することになっている。また、毎月の安全委員会では、「けがの原因は何か」「どの時間に多いか」などを調べて、職員会議で報告するようにし、必要なことは全体で共有したり改善したりしている。

【新型コロナウイルス感染症の感染対策】

今年も、新型コロナウイルス感染症の対策に追われた一年だった。担当課からは、膨大な資料が次々送られてくるので、それを理解し共有するだけでも大変だった。園内では、必要に応じて職員間の情報共有を実施したり、学習会を開いたりした。また、保護者への情報提供も心掛け、園内は年間を通して換気に力を入れ、こまめな消毒清掃を行った。

職員が現状をよく理解し、保護者とともに感染拡大防止に努めた。しかしながら、第6波以降は3回のクラス閉鎖があった。いずれも、そのクラスで感染者の発生が続いたり、クラスターになるようなことはなかった。

（職員）

デルタ株、オミクロン株と変化していく新型コロナウイルス感染症を知るための学習会を開いた。また、職員は、第6波に入りマスクを2重に着用するようにした。クラス閉鎖などが起きた場合や職員の感染が認められた場合は、園内で準備していた検査キットを使用し検査を行った。その場合、全職員を対象にPCR検査や抗原検査（全職員対象の場合はいずれも1回、それに加え関わりが深かった職員は抗原検査3日間）を実施した。感染者が確認されても、職員が安心して働けるように最大限の対応を行った。

毎日の仕事では、消毒作業（場所や回数）の確認、保護者の感染対策（観光地や県外に出向いた方の門対応）など、きめ細やかな対応に取り組んだ。

（保護者）

保護者に伝えたいことは「おたより」にして発信した。保護者には、園での取り組みを知ってもらうとともに、いざという時に何をどうすればよいかを伝えるよう心掛けた。その成果もあり、保護者は早め早めの対応を行ってくれ、クラス閉鎖を免れたケースも多くあった。

また、実際にクラス閉鎖になった時も冷静に対応してくれ、園に対する苦情やご意見等は頂いていない。折に触れた情報提供は、保護者の理解と協力を得るために必要だったと考えている。

（感染状況）

コロナウイルス感染症が確認されて以降2021年度末までの感染状況は以下の通りです。

○園児	・感染した園児数	12名
	・濃厚接触者の園児数	18名
○職員	・感染した職員数	4名
	・濃厚接触者の職員数	1名

11. 職員会議及び総括・方針会議

職員会議 毎月第1土曜日

総括・方針会議 中止（感染状況が厳しく中止した）

12. 年間行事

(1) 行事の取り組みをととして

園では、年間を通して、子どもたちに豊かな体験を保障するよう心がけており、子どもたちは、季節の行事などを楽しみにしていた。

しかし、感染拡大防止のため、通常の行事を縮小または中止したり、形を変えたりして実施することにした。大きな行事の実施時期は、7月下旬～11月下旬までとし、感染症が活発になる冬場を避けて実施した。今年度は、大きな感染の波に行事が入らなかったことで、大きな行事はすべて実現できた。

参加した保護者は、「コロナ禍でも行事を行ってくれて感謝しています」「感染対策を細やかに行っている環境で見学できたので、安心して参加できました」という内容が多く、ほぼすべての世帯が行事の実施や感染対策に対する感謝を述べられ、子供の成長した姿を喜んでいた。

以下に子どもの行事を報告する。

水あそび・プールあそび

可能な限り水遊びやプール遊びに取り組んだ。1～3歳児が水あそびを、4～5歳児がプールあそびを行った。水遊びもプール遊びも密にならないように、年齢ごとに少人数でしっかり遊べるようにした。いずれも流し水で対応した。子ども達が、気持ちよさそうにあそぶ姿が印象的だった。例年行っていたプール大会は中止した。

担当課からは、着替えの時に密にならないよう注意するよう指導があったため、3歳以上児クラスでも、職員が着替えの時間につき、子どもが自分の場所を認識しやすいように一人一枚すのこを準備するなど、空間を確保しながら行った。

ちびっこまつり【参加者：201人】

身体を使った取り組みの発表会だが、屋外でも密にならないようにするため、平日に園庭で1学年ごと5日に分けて行った。

内容は、子どもの競技のみで、見学者は各世帯2名までの入れ替え制で行った。子ども達は、どの子も一生懸命頑張る姿があった。例年通りの競技を行ったが、自分ができたことがうれしくて、できない友達に寄り添い、できるようになるまで応援したり、やり方を教える姿も見られた。

0～1歳児は、新園舎のホールで遊ぶ姿を保護者に隠れてもらった。「普段から、こんな風に遊んでいることがよくわかり安心した」「成長がみられて感動した」「いつもの運動会では、親子競技だけだが、今回は子どもの姿をじっくり見ることができてうれしかった」などの感想があった。2歳児以上の保護者からも「いつもより、間近で見ることができて良かった」「5歳児のバルーンを見ることが出来なかったのが残念だった」「子どもも保護者も入れ替わり制だったので、子どもの競技までの待ち時間が短く、どちらも集中しやすかった」などの感想があった。コロナ後のちびっこまつりの開催方法については今後検討していきたい。

お泊り保育

今年度は、保育園に宿泊する形で2回実施した。移動販売車「とくしまる」にも来てもらい、本物のお金で買い物をする体験ができた。

主な活動として、夏のお泊り保育は、「夏野菜カレー作り」と「水辺の生き物に触れる経験」を行った。冬のお泊り保育は、年間通して米作りに取り組んだが、自分たちで育てた米を脱穀し

て実際食べた。また、秋の自然物で様々な作品を作ることを楽しんだ。

1 度目のお泊り保育で、上手いかなかったことを自分の課題にし、2 度目のお泊り保育で克服したことでできたことを自信にし大きく成長した 5 歳児もいた。

おおきなあれのつどい【参加者：121 人】

表現活動の発表会として、平日に 2 日に分けて行った。今回は、園庭に足場の舞台を設置してもらいそこで発表した。見学者は、各世帯 2 名までの入れ替え制で、到着順に世帯ごとの健康チェック表へ記載してもらい、車中で待機してもらった。

保護者には、園庭に一定の距離を保ち設置した椅子に受付順に自由に座ってもらい、撮影する人には所定の場所に配置してもらった。

当日、子ども達は、視界が広がる外環境でも堂々と台詞を言い演じる姿があった。なかなか覚えられない台詞を自宅で練習していた子どもやすべての台詞を覚え友達が困っていると助けてあげる姿もあった。子どもの姿は生き生きとしていて、保護者の感動を誘った。

卒園式

3 クラスに分かれて入れ替え制で行った。今年度は一部の保育士と保護者（各世帯 2 名）とそのクラスの園児のみで行った。本当は、昨年同様 5 歳児の仲間が参列出来たら良かったが、感染が急速に拡大する中で、各世帯 2 名の参加で卒園式を行うためには、椅子の配置などを考えると参加人数を減らすしかなかった。式の内容も、保育証書の授与のみにし、時間を短縮した。

卒園式は、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。この日に、通常通りの卒園式ができなかったことは、本当につらい気持ちではあるが、子ども達は堂々とした振る舞いで証書を受け取り、子どもが証書に描いた絵は丁寧に描かれていることに感動した。

(2) 年間行事

—中止した行事—

- * 子ども対象の園内行事 = プールじまいの会、すもう大会、芋ほり遠足、鏡開き、ひなまつり茶会、角笛シレット劇場観劇
- * 保護者対象の園内行事 = 保護者総会、家庭訪問、クラス懇談会、就学前懇談会、救命救急講習会
- * 地域から招かれた行事 = お茶会、旭東こどもまつり、民話の会、お化けやしき、絵本を楽しむ会、ふれあい会食、4 園交流運動会
- * 地域の方を招く園内行事 = おつきみかい、宿題応援隊、園庭開放、劇団風の子

実施月	保育園行事	健康管理・安全管理・災害訓練	地域行事への参加 他団体との連携行事
4 月	進級おめでとうの会 * 進級のお祝い（3 歳以上児） いのちを大切にする日		
5 月	端午の節句の会		
6 月	平和の会	尿検査（3 上）	
7 月	七夕の会 お泊り保育 土用の丑の日の会	定期健康診断	
8 月			

9月	ちびっこまつり		
10月	徒歩遠足 お泊り保育	フッ素塗布	
11月	おおきくなあれの集い(3歳以上児)	歯科検診	交通安全指導
12月	徒歩遠足 クリスマス会		
1月	おにぎり弁当の日 七草の日	総合訓練	
2月	節分・巻きずし	定期健康診断 フッ素塗布	
3月	お別れ遠足卒園式 卒園式		交通安全指導
定例	個人懇談	避難・消火訓練 身体測定	

13. 職員研修

(1) 研修状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、年間通じて、園外へ出向く研修会への参加や園内に講師を招いて行う研修会には参加しなかった。研修の主催者も、リモート研修会を企画するところが多くなり、園の環境も整ってきたため、リモート研修会への参加になった。

(2) 研修一覧

	主催	研修名	日程	参加者
全国	全国保育団体連絡会	プレ合研	5/16	12人
		全国大会	7/31～8/1	6人
	全国民間保育園 経営研究懇話会	保育情勢	1/12	1人
愛知	守山幼稚園	オンライン公開保育	1/20	2人
神戸	神戸コダーイ芸術教育 研究所	オンライン連続講座 乳児保育 0歳児	4/28 5/19 6/16 7/14 8/25	4人
		オンライン連続講座 乳児保育 1歳児	4/20 5/11 6/1 6/29 8/3	4人
		オンライン連続講座 乳児保育 2歳児	4/16 5/7 5/28 6/25 7/30	4人
		オンライン連続講座 リーダー・主任	5/15 6/12 7/10 8/28	3人
		オンライン連続講座 園長・主任	5/20 6/17 7/15 9/16	2人
		オンライン連続講座 幼児あそび	4/23 5/21 6/18 7/16 8/27 9/17	1人
東京	くるみの木保育セミナー	オンラインセミナー	2/26	10人

岡山	岡山県	新型コロナウイルス感染 予防研修会	7/29 8/6	1人
		外遊びを通じた子どもの 体と心	10/19	1人
		特定給食施設関係者研修	8/12	2人
	岡山市保健所	特定給食施設関係者研修	10/13	1人
	岡山市保育協議会	危機管理	6/10	1人
		保育理論	7/8	1人
		保護者支援	8/2	1人
		指導計画	9/3	1人
		特別支援	10/21	1人
		特別支援	11/2	1人
		マネジメント	11/5	1人
アレルギー対応		12/14	1人	
乳児保育	2/10	3人		

(3) 総括・方針会議

例年総括会議を行っている2～3月は、第6波の真っただ中だった。保育・幼児教育課からも、感染リスクのある行事や集まり(大人数で長時間)は避けるように指導があたためやむなく中止した。岡山協立保育園の長い歴史の中で初めての事だった。次年度は是非再開したい。

経営報告

1. 総合評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響で、PCR検査・抗原検査等の費用への支出増と行事の縮小実施や中止に伴う支出減、また、職員の研修会への参加中止や職員親睦会・旅行等の中止による支出減があった。委託費については人事院勧告の引き下げ（一時金分-0.15ヶ月）による単価改定は実施せず、据え置かれた。

保育事業収益のうち、委託費収益は前年度と比較して2,729千円の減額となった。各種加算および減算を前年度と比較すると、栄養管理加算が区分Aに変更となったため+364千円、土曜日閉所による減算がなかったため+246千円、園児の受け入れによる基本分・処遇改善等加算・3歳児配置改善加算は、-3,536千円となった。園児全体の延べ受け入れ児童数は1744名（定員超過率121.1%）で前年度より18名増加したが、0歳児213名（前年度に対して-22名）、1・2歳児563名（前年度に対して-25名）、3歳児339名（前年度に対して+48名）、4・5歳児629名（前年度に対して+17名）となり、3歳未満児の延べ受け入れ児童数は減少し、3歳以上児が増加したことが委託費収益の減額に大きく影響した。これは、非正規職員（アルバイト）1名が、年度当初に雇用予定だったが転居により前年度末で退職したこと。また、1月以降に2名の保育士（常勤1名・短時間1名）が産前産後休暇を取得したことにより、園児受け入れ計画を見直して、0歳児の受け入れ児童数を調整したことなどによる。

補助金事業収益（公費）は、前年度と比較して3,481千円の増額となった。主な内訳を前年度と比較すると、一時預かり事業が-1,316千円、障害児保育対策事業+3,905千円、新型コロナウイルス感染症対策事業+883千円、保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業+676千円だった。岡山市民間保育士等処遇改善事業補助金は、当初3,049千円の補助が決定されていたが、配分方法に詳細な制限があるため、職員の欠勤・産休取得等により30千円を返還した。

補助金事業収益（一般）は、前年度と比較して930千円の減額となった。内訳を前年度と比較すると、一時預かり事業-848千円、延長保育事業-82千円だった。一時預かり事業は、年間利用人数が1211名（前年度に対して-454名）だったため、補助金、利用料ともに収益の減額に大きく影響した。これは、コロナの感染対策のため、原則、短時間であっても、毎日、利用できる児童に限定して受け入れたことによる。

受託事業収益（公費）は、前年度と比較して634千円の減額となった。これは、乳児保育促進加算が2021年度より対象外となったことが主な理由だった。対象外となった理由は、積立金と当期末支払資金残高との合計が事業活動収入の1/2を超えたためである。

人件費は、前年度と比較して3,452千円減少した。その内訳は、正規職員に対する給与・賞与・賞与引当金繰入が-1,208千円、非常勤職員給与が-2,359千円、派遣職員費-267千円、法定福利費+292千円だった。これは、正規職員1名と非正規職員（短時間）1名、計2名の保育士が1月から産前産後休暇を取得したこと、非正規職員（アルバイト）1名が前年度末に退職したこと、コロナ対応手当764千円、特別配分手当640千円と差し引きしても、支出が減少することとなったためである。職員賞与支出で、予算を超えて1,372円の支出をしているが、特別手当の支給時に、対象職員の欠勤控除を支給額に反映した上で、かつ総支給額が加算額を上回ることが必要なため、非正規職員の欠勤控除が影響したもの。また、派遣職員費支出で、予算を超えた5,473円は、特別配分手当の支給時に一定の支給基準にもとづいて決定した職員への支給分に加えて、派遣会社へ支払う消費税等が追加で発生したことによる。

事業費は、昨年度と比較して 1,990 千円減少した。主な内訳を前年度と比較すると、保健衛生費が 18 千円減額したがコロナによるフッ素塗布の希望者数減によるものである。消耗器具備品費は 2,790 千円減額したが、衛生消耗品費の価格高騰や入手困難の中、感染対策のために使用量の大幅な増加があったため、手袋・アルコールなどはより目的を明確にして、単価が安く供給が安定している商品への切りかえを行ったり、液体せっけん・おしりふきなども業務用の大容量商品に切りかえ、実質コストカットを実施したことにより - 845 千円となった。また、給食消耗品も、前年度に大幅な器具類を整備していたため - 198 千円となった。そのほか、保育消耗品は、前年度から継続して午睡用布団類の入れ替えやベッドの追加購入を実施しているが費用の差額は - 395 千円だった。事業器具什器は - 449 千円、その他、前年度のマスクの価格高騰および備蓄による今年度の購入費との差額は - 404 千円、例年実施している浄水器（ひやりん・給食室）のメンテナンスはコロナによる整備延期になり - 110 千円、前年度保育室の蛍光灯を一括購入したことにより - 134 千円などによる。また、賃借料はレンタルおしめの利用希望者が増加したことにより 113 千円増額している。

事務費は、昨年度と比較して 612 千円減少した。主な内訳を前年度と比較すると、福利厚生費は 694 千円増額したが、新型コロナウイルス感染症対策のため、PCR・抗原検査等にかかる支出として + 653 千円が主な理由だった。

支払利息支出で、予算を超えて 5,636 円の支出をしているが、補正予算の作成時に、積算を誤ったことによるため、今後は、誤りがないよう改善したい。

施設整備等補助金収益で、246 千円を受け入れている。内訳は、岡山県による県産材利用促進対策事業補助金 80 千円と施設整備に係る部分として岡山市新型コロナ対策緊急包括事業 166 千円。

固定資産取得支出の内訳は、建物附属設備取得支出として、県産材利用促進対策事業補助金活用して設置した 0 歳児保育室の手洗いスペースへのパーテーション 228 千円、構築物取得支出として、ブランコ安全柵追加工事 488 千円、器具及び備品取得支出として、ベッド収納庫 625 千円、屋上に設置した非常災害用の備蓄保管用大型ストッカー 116 千円、新型コロナ対策事業補助金等を活用して、コロナウィルス感染予防のための水式空気清浄機 374 千円、乳児等調乳室用の食器消毒保管庫 355 千円、食器洗浄機 609 千円。

積立資産支出では、園舎の大規模修繕等に備えるための保育所施設・設備整備積立金 18,000 千円を計上していたが、決算により保育所施設・設備整備積立金 + 5,000 千円を積み立てたことで、現在高は、人件費積立金 35,000 千円、保育所施設・設備整備積立金 73,000 千円となった。

法人全体の貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は + 702 千円、固定資産は + 10,227 千円となった。当期活動増減差額は 23,210 千円で、前年度より 5,392 千円増加した。経営状態は良好であるといえる。

新型コロナウイルス感染症への感染対策が依然として継続されているため、行事の縮小化、研修会への現地参加見送り、園内学習会開催の自粛など、活動に対する支出そのものが全体的に抑えられている。しかし、日常生活に必要な消耗品類や食材については、メーカーによる値上げが実施されており、今後も、同様の状態が見込まれる。新型コロナウイルス感染症が収束した後、積極的な活動をするための費用については、より、効率的かつ効果的な支出を戦略的におこなうことが必要になると感じた。

2 . 施設整備の状況

(1) 土地・建物の取得

特になし

(2) 建物・備品等の修理・修繕

- ・外倉庫シャッター 鍵の修理 1 台
- ・家具調整、玄関補修、アクリル板・パーテーション設置
- ・排煙装置の点検と修繕
- ・排煙装置 ハンドル修繕
- ・トイレつまり抜き
- ・屋外水栓 修理
- ・スチームコンベクションオープン 修理
- ・一時預かり保育室エアコン リモコン修理
- ・スチームコンベクションオープン 浄水カートリッジ交換
- ・さくら組エアコン リモコン修理
- ・なのはな組エアコン リモコン修理
- ・3上職員トイレ 扉修理
- ・給食室 給湯器修繕

(3) 設備・備品等の整備

- ・ベッド収納庫 2 台
- ・大型ストッカー 1 台
- ・水式空気清浄機 2 台
- ・食器消毒乾燥保管庫 1 台
- ・食器洗浄機 1 台
- ・れんげ組 手洗いパーテーション
- ・ブランコ安全柵